

2050年に向けて本質的な変化を呼び起こす ～ May the "Co-Active[®]" be with you ～

現在、私たちは様々な問題(平和、気候、エネルギー、医療、人口、労働、食料など)を抱えています。

そのような中、私たちの未来は自分たちで創出していくことを意図し、「意識の進化を呼び覚まし、人やシステムが本来持っている可能性が拓かれた、幸せな今と未来を創ります」というウェイクアップのミッションを、多種多様な視点から深耕し合う場として、「ウェイクアップ・フェス」を開催しました。

2022年11月28日～12月2日のフェス期間中に実施した各イベントにて、私たちが願う2050年の世界に向けて、「ウェイクアップができること、やろうとしていること、現在進行形の取り組み」などを様々な角度からご紹介し、「あなたはこれからどんな一歩を踏み出しますか？」という問いと共に、参加者の皆さまとより良き未来を展望しました。

各イベントの詳細は実施サマリーをご覧ください。



ウェイクアップは、私たちのミッションのもと、Co-Activeをベースとした様々な活動を展開しています。今回のフェスではその一部をご紹介しながら、未来を展望しました。

2050年に私たちはどんな世界を創りたいのか ～EVOKE TRANSFORMATION～



企画時の願い

5年後、10年後といった時間軸ではどうしても現在の延長線上で考えてしまいがち。思い切って30年後に目線を上げて考えたとき、世界の大きな構造変化とその中でどんな世界を創っていきたいのか？ という本質的な疼きも生まれてくるはず。これからじわじわと大きく変化していく2050年の世界に向けて、その変化を待つて対応するのではなく、自分たちで創っていくものだという考えに共鳴して、自分は何をするかという問いが生まれている。それだけにとどまらず、何か一歩行動をしたくてたまらないと思ってしまうような場にしたい。

当日の様子

キーンोटスピーチというよりもキーンोट対話、という雰囲気ですべてを進行。ウェビナー形式ではあったが、「今から30年前はどうだったか？」などの問いかけに対して、チャット機能を使って様々なコメントを寄せていただいたり、経営陣の「こんな2050年を創りたい」という思いにリアクションやコメントをいただいたりと、双方向感もあるウェビナーとなった。最後の「どんな2050年を創りたいか？」という問いについても視聴者の皆さまそれぞれの思いがこもったコメントをいただき、2050年に向けた“本質的な変化を呼び起こす”キックオフ的な場になったと感じる。

今後への意図

2050年に対するウエイクアップ経営陣の思いを提示した。今後ますます複雑化する社会の中で、様々なプレイヤーが自立・連携して協働し、創造することことが一層重要になってくる。そのときに、Being(思い)とDoing(行動)を両立させるCo-Activeのあり方はパートナーシップの基盤/OS(オペレーティング・システム)となるべきあり方だ。これは単なる予想ではなく、自分たちがなにものであるかの一つの提示でもある。Evoke transformationを合言葉に、柔軟に様々なパートナーシップを創っていくという思いでもあり、ウエイクアップに関わった人への期待でもある。

古武術体験とコアアクティブ・ コーチング®における身体知性



企画時の願い

コアアクティブ・コーチングでは、身体には知性があるということを伝えている。体現/エンボディメント(embodiment)による身体の動き、感情を通したフィードバックを得、クライアントの本当の願いにアクセスし、本当の自分に対するリーダーシップを発揮し、生きていくことを願っている。しかし、その身体知が何故有効なのかという経験則以上の知識がそろっているとは言い難い。そこで、古武術体験、その体験を対話することで、コアアクティブ・コーチングにおける身体知性を経験豊富なCPCCと共に探求していく。

当日の様子

前半部の古武術体験と、後半部の対話のパートという構成で進行を行った。前半部では、実際に身体を動かしながら古武術の身体の使い方を体験していった。普段の力の使い方と古武術の力の使い方の違いを体験し、これまで味わったことのない感覚や、力の発揮の仕方を味わった。後半部では、前半の古武術での身体の使い方で体感したことを言葉にしながらか対話をしていく中で、自分を整えることの大事さ、意識の置き所、クライアントや家族との関係性、そして何故シナジーが起こるのかなどの発見を言葉として表現していった。

今後への意図

コーチングや人生へ身体の智慧を活かしていく方法の一つとして、今回は古武術の動きから理解を深めていった。古武術体験から得られたことには、一人の人の本質的な変化に繋がることだけではなく、身体感覚を使った他者との関わり方が意図的協働関係を創ることにも役立つということなど、新しい発見もあった。今後は、古武術はもちろん、他の可能性も広げていきながら、身体の智慧を更に深く求め、「身体知はなぜ有効なのか」を表現し、コアアクティブ・コーチングや人類の未来に活かしていく。

あなたの組織、生で診断します



企画時の願い

本質的な変化を組織が生み出すときに大切なことは組織やチームが持つ願いだ。今回のイベントではそのご自分の願いに気づく場を意図している。

実際の組織の生の声を参加者と共に組織変容®コーチが聴き、診断することでご登場いただく組織にとっても参加者にとっても、その願いに気づく時間としたい。また、組織変容コーチが組織やチームの課題をどのように捉えているかを実際に聴いていただくことで、ご自分が所属する組織についての新たな発見が生まれることを願っている。

当日の様子

実際に組織変容コーチが行うクライアントへのインタビューの形式で、2名のコーチが対象者の方に15分ほどインタビューした後、4名のコーチで該当組織の強みや課題の診断を行った。

惜しみなく自社の状況をオープンにしてくださいましたケースご提供者様のおかげで、参加者の方も自社の課題と照らし合わせながら、ケースを聴くことができた。最後にはzoomのチャット上でケースご提供者への応援コメントが集まり、参加者同士のつながりが生まれる場となった。

今後への意図

組織変容が起きるには、組織の中にその種火を燃やし続ける存在が必要だ。種火を燃やし続け、大きな火に育てていくには、薪をくべ続け、息を吹きかける存在も必要だ。ケース提供者様の笑顔を拝見したとき、私たち組織変容コーチは、その火の薪となり、大きなうちわで酸素を送り続ける存在なのだと改めて実感した。一人で種火を燃やし続けることは困難極まりなく、時に水をかけて消火したくなることもあるかもしれないが、そんな時に思い出していただけるパートナーであり続けたいと感じた90分だった。

2050年の未来と世界に向けた 組織作りとリーダー育成



企画時の願い

2050年という未来に眼差しを向けようとは思っても、企業や組織という単位では目の前のことも大切。逆に言えば、今から未来は創られていく。その今と未来を日ごろの協働から共創していく3社様の対話を通じて、2050年という未来像も共に創り、共に行動を起こしていくことで、その輪も少しずつ広げていきたい。

当日の様子

三井化学様、NECマネジメントパートナー様、日本コンピュータ・ダイナミクス様の3社様を迎えて ①今現在の課題感は何か？ ②今後長期的に見て組織やリーダーに必要なものは何か？ ③2050年に向けての「願い」「志」は？ という内容で対話。一人ひとりが自分の人生に対しての思い・パーパスを持つことや、そういった声を出すことのできる組織であること、その基盤の上で他者と本質的なつながりを持つことの重要性などが語られた。

今後への意図

2050年に組織のリーダーとして活躍しているのは、おそらく今の若年層。今は世代間の価値観の相違なども組織の課題として挙げられることが多いが、そういった変化を受け入れて能動的に挑戦していくことも大切。「会社のため」に加えて「自分のため」という観点を持つことが2050年につながる。SDGsからWell-beingへ。一人ひとりの幸せを実現する世界になってほしいという強い願いを今回のような共創パートナーと奏で合いながら未来を創っていきたい。

宇宙と人の意識



企画時の願い

宇宙開発が進む一方で、地球上では絶えず争いが続いている現状。人類はこのままの意識で宇宙へ出て行っても良いのか？何か意識を変容させていく必要があるのではないか？人間中心ではない宇宙の理を知り、感じた上で、現在の地球が抱えている様々な問題(平和、気候、エネルギー、医療、人口、労働、食料など)に立ち戻ったとき、自分自身の日常を振り返ったとき、次の一步は、選択は、どうなるだろうか？そこからより良き2050年を共に創造していきたい。イベントを通じて、視聴者の皆さまにそんな感覚を持ち帰っていただきたい。

当日の様子

国立天文台の縣秀彦先生より、ジェームズ・ウェッブ望遠鏡が捉えた画像の紹介やMitakaというソフトを用いた宇宙旅行を交えながら、Awe(畏敬の念)を感じる深いお話をお聴かせいただいた。ご講演の後、当日ご参加が叶わなかったNECアメリカ社長・池野昌弘氏からの、経営者として、また宇宙物理学や哲学も交えた視点からのコメントもご紹介しつつ、縣先生とウエイクアップのメンバーとで、ペールブルードットメッセージ、ユニバーサルな視点の獲得、謙虚さを持って歩んでいくことの大切さについてなど、盛り沢山の対話となった。

今後への意図

今回のイベントを経て、「体験すること」「実感すること」「対話すること」を通じて深い気づきを得たり、学んでいくことの大切さを改めて認識した。本プロジェクトでは、宇宙視点＝ユニバーサルな視点から「意識の進化」を超えたところにある何か、somethingを探求しているが、人類が謙虚さを持って歩み出すことの先にある可能性を引き続き探っていきたい。今後も「人間中心を超えた宇宙の理を共にセンスする場を創る」ことを意図し、人々や社会の「意識の変容」や「より幸せな今と未来の創造」に繋げていきたい。

サステナビリティ経営を実現する リーダー育成と組織づくり



企画時の願い

私たちはいま、気候変動、格差の拡大、国家間の紛争、パンデミックなど、いくつもの大きな課題や変化に直面している。

SDGs/ESGの普及やサステナビリティ経営の推進など、企業のあり方や存在意義も変化を求められている。しかし、外的圧力による変革には限界がある。人と組織の変容が、本質的かつ持続的な変化には欠かせない。

では、一人ひとりがどんなBeing/Doingでこの課題に向き合うことが大切なのだろうか。企業で様々なチャレンジに取り組む登壇者3名とともに、対話を行う。

当日の様子

当日は40名近くにご参加いただいた。サステナビリティ経営の浸透と実践という時間のかかるチャレンジに、個人としての思いと共に粘り強く向き合う3名の登壇者のストーリーは、何をどうするのか(doing)だけでなく、リーダーシップやスタンス(being)が重要であることがヒシヒシと伝わる内容だった。

参加者の方からも、「自分の内なる火にも新たな炭をくべていただいた」「オープンなマインドを大切にすることを決意した」「対話を通して自分のありたい姿に気づいた」といった感想をいただいた。

今後への意図

サステナビリティ経営を実現するリーダーを育成すべく、毎年開催している「SDGs実践会 ラーニングジャーニー」(社会課題の解決に挑むリーダーの実践や思いに触れ、自身のリーダーシップに火をつけるプログラム)の継続開催に加え、コーチングや組織変容[®]の知恵がよりよい社会の実現にどう貢献できるのかを問い続け、実践していく。

また、ウエイクアップ内部に閉じず、今回のような組織を超えた対話の機会を創り、新しい動きを共創していく。

1on1事例共有会



企画時の願い

昨今、一般化されつつある企業内1on1だが、主に実施側の管理職層が抱える悩みが多種多様で、これまで1on1の手法や悩み相談などのシェアの場もなく「ノウハウやナレッジの共有」に対する要望が潜在的にあると仮説を立てていた。

そこでウエイクアップ・フェスでは、いつもの「1on1ウェビナー」の延長版として、「視聴型」から「参加型」に切り替え、実践者の本音トークからナレッジ(気づきやヒント)を持ち帰っていただく場を創出し、ウエイクアップを相談相手として認知いただきたいと願っていた。

当日の様子

少数限定で募った中、当日参加くださった8名の1on1実践者とMC平田、3名のウエイクアップスタッフとで、1on1実施での課題・問題をシェアし合うことから開始。出された課題から、いくつかのケースを取り上げ、参加者全員で当事者意識とこれまでの知見から改善アイデアを出し合う対話をした。全体参加数のバランスが取れて、満遍なく参加者からアイデアや意見が出され、多くの方はメモを取りまくりアイデアがアドオンされていた。最後のコメントでも満足度の高い方が占めていた。

今後への意図

このテーマに対する関心度は間違いなく高いので、今後も参加者で情報シェアし合う場の創出を継続することで、相談相手としてのウエイクアップの認知度アップを目指したい。

また、1on1という事柄だけにフォーカスするのではなく、企業や組織において「ヒト」を軸とした対話や関係性の重要度に気づいてもらうよう、Co-Activeでの関わりの重要性を発信し続けたい。

まずは、ウエイクアップ流「1on1実践テンプレート」などマーケットニーズに応えていこうと考えている。

Co-Active®モデルの変遷と、 Co-Active®のこれから



企画時の願い

私たちのコンセプトは『ルーツに触れると未来が動き出す』。

Co-ActiveモデルやサボタージュなどのCo-Activeコーチングにおけるツールの『変遷(過去から現在)』を知ることで、Co-Activeが時代を感じ取りながら、どのように歩んできたのかに思いを馳せることからスタート。

そして、そこから改めて今を感じ、未来を想像し、一人ひとりが願う未来に向かうための一歩を創り出すきっかけとなることを願って企画した。

当日の様子

Co-Activeの過去・現在・未来の3部構成で旅をした。

<過去>では、Co-Activeモデル／内なるリーダー・アーライ／人生の目的／サボタージュの変遷を、その時代背景と共に振り返った。<現在>では、Co-Activeと今の私について、今どんな時代を生活しているのかをレベル3で感じ、そして自分とCo-Activeは今どうなのかについて対話。そして<未来>ではビジュアライゼーションを行い、各々の2050年の未来を描き、語り合った。最後に「どんな自分で、どんな一歩を踏み出しますか？」という問いを投げかけ、各々の持ち場へ持ち帰っていただいた。Co-Activeという共通言語で繋がり、学びの世代を超えて対話する参加型のイベントになった。

今後への意図

参加者一人ひとりの願う未来へ向けての一歩が、周囲にCo-Activeの波紋を作り出し、やがて大きなうねりとなって、人々がより善く生きる社会が今ここから創り出されていくことをここからも続けていきたいと思う。